

令和 2年度
岡山県内におけるカワウねぐら調査報告書
(冬期調査)



カワウの集団漁

日本野鳥の会岡山県支部

令和 2年度 2月

岡山県内における冬期のカワウのねぐら利用個体数調査報告

1. 目的

近年、個体数・分布域が増加・拡大し、農林水産業等に被害を与えているカワウについて、生息状況を把握し、今後の鳥獣被害防止対策の適正な推進のための基礎資料とする。

2. 調査の内容

県内の冬期カワウのねぐらを観察し、カワウの生息状況について調査した。

3. 調査の方法

(1) 調査回数及び調査時期

年1回（冬期）カワウの生息状況のモニタリングのため、ねぐらにおける個体数調査をカワウがねぐらとしている場所を特定しておいて冬期のカワウねぐら調査を12月中旬から1月上旬の間に行った。

(2) 調査場所

県内のコロニー及びねぐら

(3) 調査事項

カワウの個体数等

① コロニー及びねぐら入りしている個体数

② コロニー及びねぐらへ帰還してくる個体数及び飛来方向

なお、ねぐらへ帰還してくる日没前後の時間帯において個体数及び飛来方向等を調査しその記録を記した調査記録用紙は別紙「令和 2 度 冬期のカワウねぐら調査結果 資料編」に示す。

4. 調査結果

本年度県内で冬期に生息するカワウの羽数は、6,525羽であった。

その内、吉井川水系で1,083羽、旭川水系で2,171羽、高梁川水系で1,562羽、そして海上部諸島と海岸域での湖沼で1,709羽の利用分布であった。

確認できたカワウのねぐら確認場所とカウント羽数を表-1に示す。

カワウのコロニー・ねぐら調査箇所は、37か所行い、その中で利用していた箇所は、29箇所であった。利用されていない箇所は、そのほとんどが繁殖期のコロニーとして利用していた場所であった。また、新たにねぐらとして確認された場所が1箇所見つかった。

表一1 令和 2年度 冬期ねぐらにおけるカワウ生息数調査

No.	河川名	ねぐら場所	R2年度羽数	R1年度羽数
1	吉井川	岡山市東区川口 中州 観音院対岸	433	513
2	"	岡山市東区百枝月 豆田対岸	343	128
3	"	赤磐市熊山勢力 山陽道橋下流	31	139
4	金剛川	和気町藤野	25	31
5	吉井川	和気町佐伯苦木	0	5
6	"	和気町佐伯塩田 備作大橋下流	0	0
7	"	和気町佐伯塩田 周匝橋下流	96	25
8	"	津山市瓜生原 押淵上バス停対岸	5	8
9	"	津山市日上	49	94
10	"	津山市宮尾 新錦橋上流	101	147
11	広谷新池	津山市日本原 広谷新池	0	0
12	吉野川	美作市青野 尾谷橋下流	0	74
13	切池	勝央町福吉 切池	0	0
		吉井川 水系 小計	1083	1164
1	百間川	岡山市中区沖元 百間川中洲	80	286
2	旭川	岡山市中区中原 三野公園前	1,711	1105
3	"	岡山市北区御津矢原	75	71
4	"	岡山市北区建部町吉田 中吉橋上流	48	88
5	旭川ダム	美咲町栃原 旭川ダム湖 浮桙上	0	46
6	"	真庭市落合町法界寺	164	75
7	砂川	岡山市東区瀬戸町笹岡 砂川	0	6
8	二井大池	赤磐市桜ヶ丘西 二井大池	93	54
		旭川 水系 小計	2,171	1731
1	遊水池	倉敷市水島川崎通り 汐入川遊水池	554	380
2	高梁川	倉敷市酒津 清音古地の対岸	252	301
3	"	総社市福谷	170	199
4	"	高梁市玉川町玉	206	103
5	成羽川	高梁市備中町布賀黒鳥(黒鳥ダム下流)	48	67
6	成羽川	高梁市備中町平川 新成羽川ダム湖	2	0
7	河本ダム	新見市哲多町宮河内 河本ダム	132	84
8	小田川	井原市木之子町 小田川	0	0
9	星田池	井原市美星町星田 星田池	14	20
10	蛭田池	井原市木之子町 蛭田池	184	115
		高梁川 水系 小計	1562	1269
1	片上湾	備前市 片上湾 前島	186	452
2	牛窓町	瀬戸内市牛窓町鹿忍	210	243
3	児島湾	岡山市南区宮浦 高島	920	1375
4	水島灘	倉敷市児島通生 葛島	264	445
5	玉島港	倉敷市玉島柏島 玉島港 丸山	83	368
6	深山公園	玉野市田井 深山公園 中池	46	—
		海岸域および河川以外の場所 小計	1709	2883
		調査か所37か所中29のねぐらでのカワウ生息数 総計	6,525	7053

各河川水系における出現割合を図-1に示す。

図-1 令和2年度 各河川水系における出現割合図

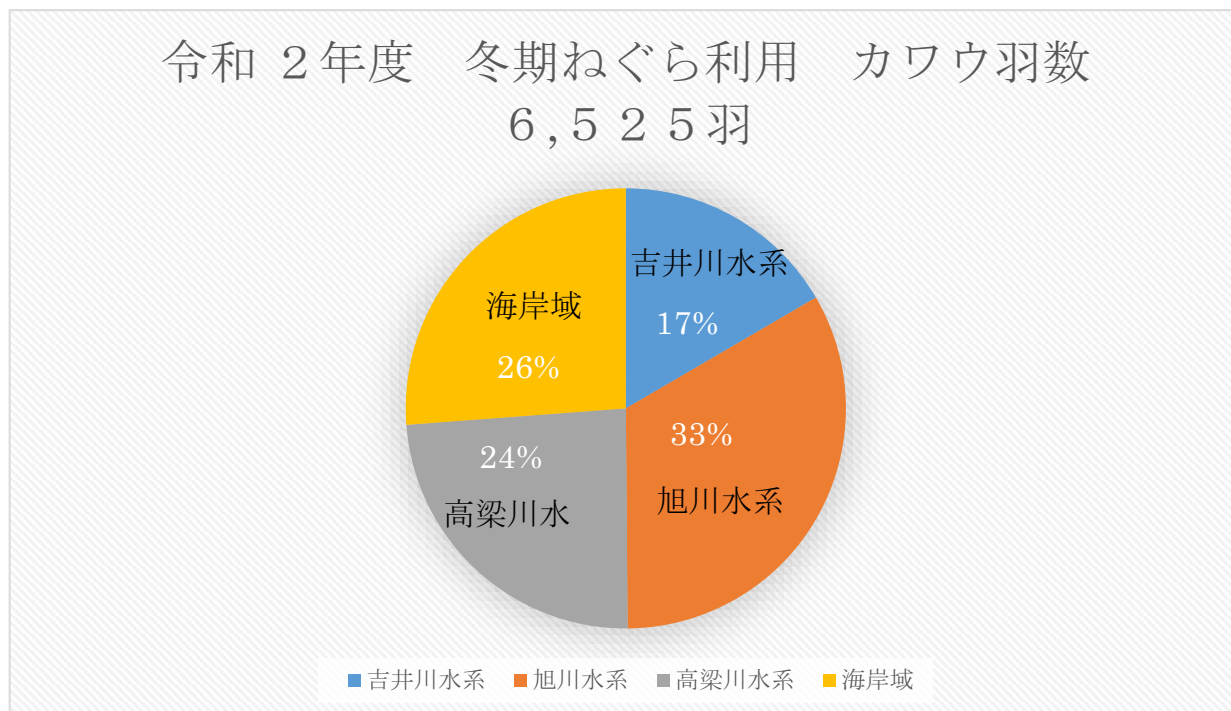
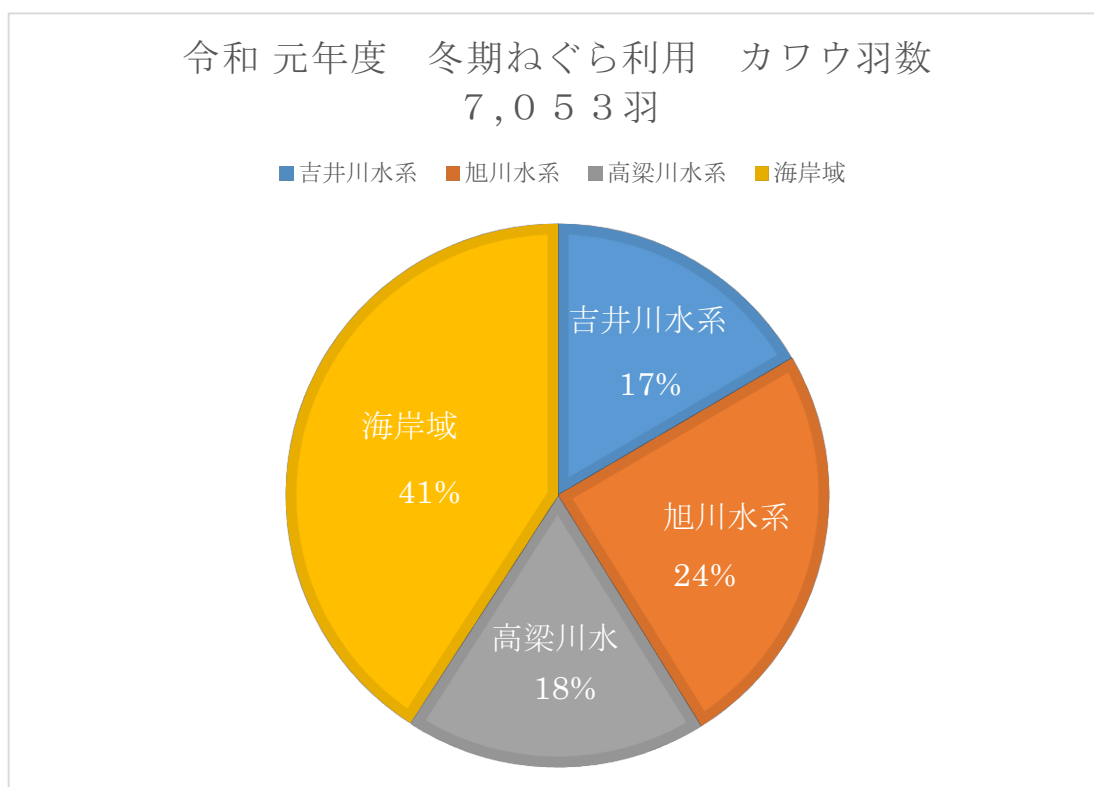


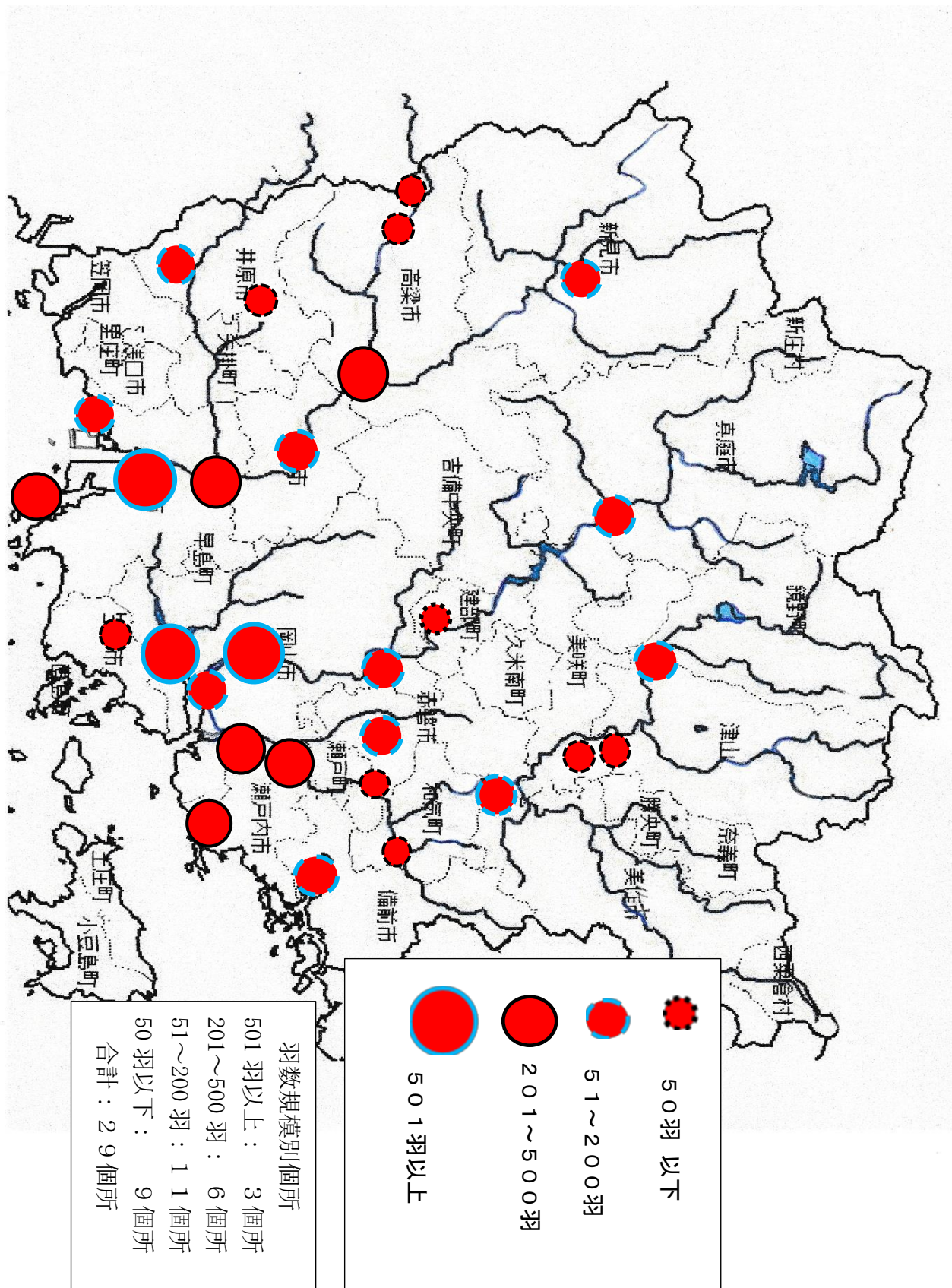
図-2 令和元年度 各河川水系における出現割合図



昨年と比較して羽数が528羽減少である。主な要因は海岸域において1,174羽（15ポイント）減少したことによる変動である。海岸域では、どの調査地でも減少している。

ねぐらが確認された場所を図-3に示す。

図-3 カワウの冬期ねぐらが確認された場所図



5. まとめ

令和 2 年度、冬期において岡山県内に生息するカワウの個体数を夕刻に「ねぐら入り」する羽数をカウントした調査の結果は、総数 6,525羽であった。

今年度、春の繁殖期にコロニーでカウントした羽数は、3,573羽であったから、春の繁殖期と比較すると冬期は、2,952羽が増加している。

昨年の県外からの増加数は、4,670羽であったので、本年度は少なめであった。

確認総数も、昨年は 7,053羽であったので528羽減少している。

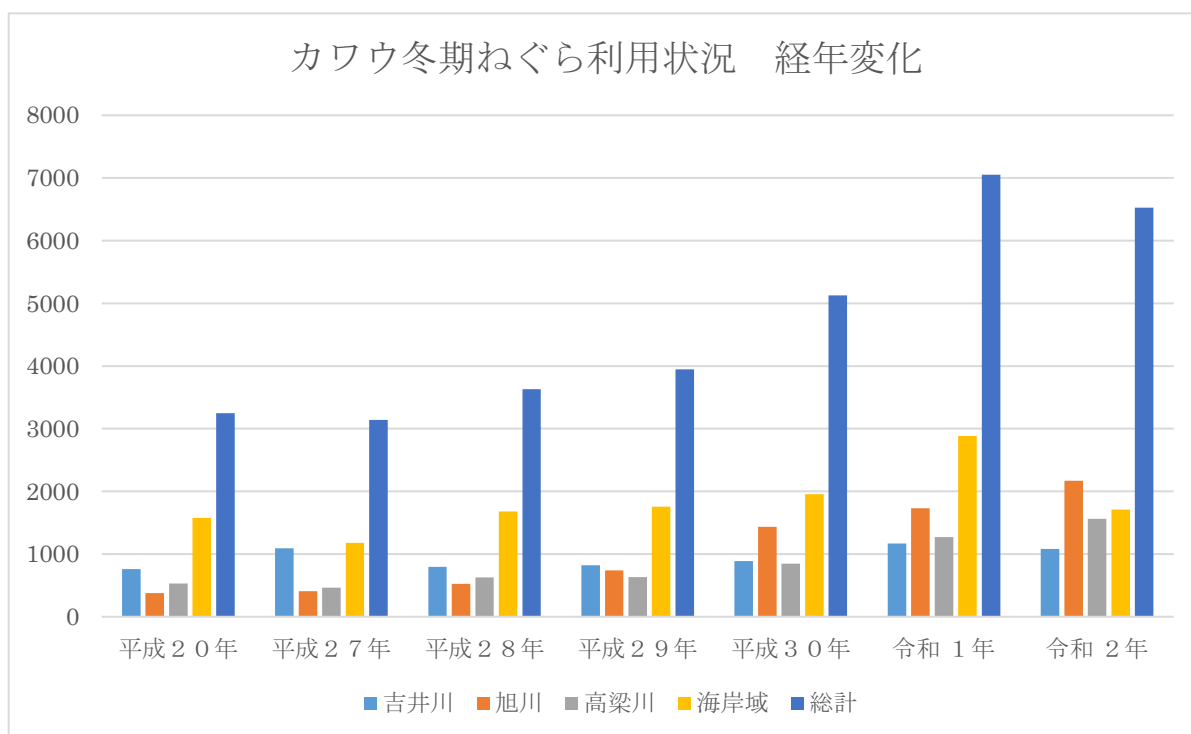
今年度確認された冬期羽数を以前の調査結果と比較すると表-2となる。

表-2

年度	R2年	R元年	H30年	H29年	H28年	H27年	H20年	H18年	H14年
羽数	6,525	7,053	5,125	3,949	3,629	3,140	3,245	3,344	2,251

昨年度より、少し減少したが、数多いカワウが冬期県内に生息する状況が続いている。

図-3 経年変化図



県内の総数は、今年度少し減少しているが、昨年が続く2番目に多い羽数である。今年度の減少については、海岸域で新規の深山公園を除いた5か所でそれぞれにおいて羽数の減少が見られた。海岸域全体で1,174羽の減少であった。

また、県内で最も大きなねぐらは、旭川の三野公園前1,711羽を数えている。

この三野公園前は、今年度河川木の伐木を計画されていたが、カワウの大きなコロニー及びねぐらで有ることから伐木計画から除外して頂いた経緯がある。

(完)